

序 言

東京都江戸東京博物館では、平成5年の開館以来、江戸東京の歴史に関する調査研究を行なってきました。その成果は、展示事業を始めとして、刊行事業（紀要、調査報告書、史料叢書、資料目録など）、えどはくカルチャー、シンポジウムなどを通して公開をしています。

都市歴史研究室では、その調査研究の一端として平成13年度より年間テーマを掲げた地域研究を開始し、地域テーマごとにシンポジウムを開催してまいりました。その研究成果として「日本橋」「江戸から東京へ―四谷塩町一丁目の暮らし―」「江戸城と丸の内」「日本橋・銀座・汐留―にぎわいの街―」「江戸城研究の新視点―織豊城郭としての江戸城・江戸所の経営と消費―」「太田道灌と城館の戦国時代」「両国地域」「江戸の水害―被害・復興・対策―」「喜多川周之コレクション（フォーラム）」を、順次広く都民に公開して来ました。

平成23年度は、「芝地域」の年間特定研究を行い、シンポジウム「芝地域を考える―愛宕・増上寺・芝神明―」を平成24年2月18日（土）に当館1階ホールにて開催し、多くの方々が来聴されました。本報告書は、このシンポジウム「芝地域を考える―愛宕・増上寺・芝神明―」の成果をまとめた報告論文4本、およびパネルディスカッションの記録を中心に編集し、また「芝地域」に関する館蔵資料目録、当館図書室所蔵資料を中心とした「芝地域」に関する図書資料目録、そして「芝地域」に関する代表的な資料を口絵として掲載しました。

東海道の江戸への入口である芝口の少し手前に位置する「芝地域」には、火防の神を京から勧請した展望のよい愛宕社、徳川将軍家の菩提寺の一つで大伽藍を誇る三縁山増上寺、そして宮地芝居や門前の錦絵商いなどの江戸の土産物ショップの集まる芝神明（飯倉神明）といった寺社を中心とする地域でした。またこの地域は、信仰の聖地であり、名所観光地であり、賑わいのゾーンともいえるべき地域でありました。

江戸幕府瓦解後の「芝地域」は、時代を逐うに従い大きく変貌を遂げ、明治6年（1873）に増上寺境内地は「芝公園」（25区画）となり、明治23年（1891）には眺望を売り物としたホテルと五層の塔・愛宕館の建設、大正14年（1925）には愛宕山の東京放送局の電波塔から「JOAK」の声が初めて電波に乗り、やがて昭和33年（1958）の高さ333mの日本電波塔（東京タワー）の建設、また昭和39年（1964）には東京オリンピックに合わせた東京プリンスホテル（旧徳川家霊廟跡）の開業も相俟って、東京観光の一拠点ともなりました。

本報告書では、このような「芝地域」についての諸相について触れていますので、ご活用下されば幸いです。なお本報告書を編集するにあたり、港区の郷土資料館を始めとして、多くの機関・個人の方々に協力を得ましたことを感謝申し上げます。

平成24年11月
東京都江戸東京博物館
都市歴史研究室